

四万十川を保全するため「流域市町村の独自指標」

清流通信の読者の皆さん、こんにちは。今回は8月18日に四万十川総合保全機構（平成6年、流域8市町村が一体となって流域の保全と振興に取り組むため設立。会長＝中平正宏・西土佐村長）より公表のあった、四万十川を保全するための指標について紹介します。

この指標は、平成14年に制定された流域8市町村それぞれの四万十川条例に基づき、条例の成果を把握するために定められたものです。スタート地点に立つという意味から現時点の数値（現状値）をとらえた指標としました。

四万十川は、上流域、中流域、下流域とあり、流域は一体ながらも、地域の生活、文化、伝統などそれぞれ固有のものがあります。今回の指標づくりではそうした違いを踏まえ、流域一体となった取り組み成果を確認するため、8市町村で共通する項目と、各市町村独自の項目を盛り込みました。

共通のものには以下の6項目があります。

- ・清流を守るための「清流基準の達成」
- ・浄化施設の普及など「生活排水の浄化率」
- ・森林保全を目的とした「除・間伐面積」
- ・景観の保全で「一斉清掃の回数」
- ・自然文化の面で「沈下橋の適正な管理・保存数」
- ・野外活動対策で「こどもが川に親しむことのできる場所数」

一方、市町村独自の指標では、中村市の「自然体験型修学旅行の校数」、西土佐村の「ブラックバス等の捕獲数」、十和村の「川舟の数」、大正町の「沈下橋対岸の増水時孤立人家数」、東津野村の「景観木の保全」、梶原町の「茶堂の設置およびお接待の実施回数」などといったユニークな指標も設けました。

今後は、各市町村の経年変化を指標の数値で確実に捉え、分析していくことにより、四万十川流域の実態を把握していきます。数値が向上している場合は、さらなる上を目指し、一方、悪化している場合は、好転させるために流域8市町村が連携して取り組んでいきます。

●お問い合わせ 財団法人四万十川財団 電話0880-29-0200

なお、指標については、四万十川財団のホームページにて閲覧できます。http://www.shimanto.or.jp



▲十和村の指標「川舟の数」



▲梶原町の指標「茶堂の設置およびお接待の実施回数」

Topics

十和村の秋の味覚「栗きんとん」を味わってみませんか。

栗産地として知られる十和村で、20年に渡って羊かん作りを続けてきた農家の女性グループ「清流栗庵」の皆さんが、昨秋に商品化した新作生菓子です。生もので作り置きできないため、受注生産方式により9月～3月までの季節限定で販売を開始しましたが、栗の自然な甘みとほくほくとした食感が評判を呼び、初年度は1月早々に完売しました。今年も取れたての栗をふんだんに使って9月下旬頃から販売を予定しています。12個入り2,000円(送料別)

●お問い合わせ：清流栗庵(代表者/池田照子さん) TEL・FAX.0880-28-4438

四万十の自然木で木工作品を創る「四万十楽舎の柚人(そまびと)」

清流通信の読者の皆さん、こんにちは。今回は四万十川下流の西土佐村にある自然体験施設「四万十楽舎」で木工のスタッフとして参画している梨千春さんの活動を紹介します。

「四万十楽舎」は、平成10年に廃校になった小学校を改築し、自然体験と宿泊ができるようにした施設です。カヌーや釣り、森林散策などスタッフと地元の名人たちがガイド役となって、年々交流人口が増えています。

梨さんは、大学で工業工芸デザインを学んだ後、自転車のデザインや広告のデザインの仕事に従事していましたが、大量生産と大量消費という社会の悪循環に疑問を抱き、真のもののづくりを求めて生まれ育った西土佐村にUターンして来ました。現在、梨さんは「四万十楽舎」でオリジナルの木工製品を創りながら、希望者に対しては木工教室を開き、簡単な写真立てなどの作り方を教えています。

「近年、木材が売れなくなり山の仕事がどんどん減ってきています。これは、子供のうちから、木に接していないことが大きな原因ではないでしょうか。30～40年くらい前までは、柚山(そまやま)といって、生活道具を揃える自分たちの山を持っていました。女の子が生まれたら、桐の木を植えて、結婚するときに桐の筆筒を持たせたという話も県内に多く残っています。木の魅力は、何といたっても人工素材にはない生命感だと思います。木は常に呼吸しているのです。私は、環境問題に興味を持ち始めた時に、四万十楽舎の設立を聞き、絵を描くお手伝いから仲間に入っていました。最近は微力ながら、地元の小中学校の講師として、木に触れ合うことを目的とした木工の授業を受け持っています」と梨さん。

間伐材や雑木、また四万十川の流木を用いた作品は、梨さんの性格が表われているのか、全てが優しく、温かみの感じられるものばかりです。なお、木工製品の販売は、ネット販売をしています。

●お問い合わせ 四万十楽舎 TEL.0880-54-1230

<http://www.netwave.or.jp/~gakusya/nashi/nashi.html>



▲オリジナルパズルを手にする梨さん。



▲白井貴子さんより注文を受けたイス。

Topics

板橋文夫 ジャズコンサート

「四万十ライブツアー」

- 日時： 10月16日(土)18:30 松野町滑床
- 10月17日(日)15:00～ 西土佐村口屋内
- 10月19日(火)18:30 中村市初崎港

- お問い合わせ： 実行委員会 TEL.090-4789-0469

「第10回アート&クラフトフェア・源流のうた」

四万十川のミニスケールの196mを目標に、皆で長い手作り紙を作ります。

- 日時： 11月6日(土)12:00～17:00
- 7日(日) 9:00～16:00

- 場所： 梶原町役場駐車場(雨天時は梶原座)
- お問い合わせ： てんぐの風 TEL.0889-68-0028

まぼろしの香り米「十和錦」の発見者は「四万十・農の達人」

清流通信の読者の皆さん、こんにちは。今回は四万十川中流域の十和村にお住まいの上山岩雄さん(83歳)を紹介します。

上山さんは、昨年、奥さんのチドリさんと一緒に地元の広井茶生産組合の「しまんと緑茶」のテレビCMに出演し、ACC CMフェスティバル「ACCファイナリスト」賞を受賞した有名人です。また、栗の生産者としても名人であり、毎年高知県の栗の品評会で上位の表彰を受けています。一方、上山さんは四万十流域の香り米「十和錦」の発見者で、流域での普及に貢献されました。

「昭和30年代の前半でした。当時は黄金錦を作りよりましたが、その中で背丈が10cmばあ高く、稲穂がようけ(多く)ついているものを見つけました。初穂を採ると杯にたったの一杯位しかなかったけん、食わずに翌年に増やし、またその翌年にやっと食味をすることができました。餅米のように粘りがあって、麦と混ぜても香りが良うて、まっこと(本当に)美味しく、朝、米が炊き上がった時には何とも言えん幸せな気分になりました。ある時、姉が家に来て、このえい(良い)香りは何かと聞くけん、今までのいきさつを話すと、こんなにうまいもんは広めないかと言うことになり、姉の夫が農協の役員をしよったこともあって、だんだんと広まりました。名前がまだなかったので、合併をすることになった十川村と昭和村からとり、私が「十和錦」と命名しました。「十和錦」は栽培が難しいと言いますが、肥料をやりすぎるとかやり(倒れ)ますので、その特性を知っちょけば難しいことはありません。私は、今も除草剤を使わずに手植えで大切に作りよります。」

「十和錦」は、上山さんによりますと100%「十和錦」で炊いてもいいということですが、香り米なので、香りが強く感じられる方は、お米2合ぐらいに小袋で販売されている1袋(80g)がちょうどいいと言われています。

「十和錦」について、お米の専門家は、粘りがあり、さめても風味豊かな香りがし、おにぎりやお弁当のご飯に適していると評価しています。皆様もぜひ、お試しください。きっと幸せな気分になります。

●お問い合わせ 四万十ドラマ ☎0120-40-5532

<http://www.shimanto-tennen.com>



▲十和錦の生みの親・上山さん。



▲80g200円のお試し用サイズもあります。

Topics

「第15回電気ふるさと しまん市」のお知らせ

千葉県の幕張メッセで、イベント期間中15万人が来場するといわれる日本一の物産・観光展が開かれます。今年は、四万十川財団(四万十川保全機構事務局)の音頭取りにより、流域8市町村がこぞって出展します。会場中心の「わがまち日本一」コーナー近くへ是非お越しください。

●日時：11月19日・20日/10:00~18:00 21日/10:00~17:00

●場所：千葉県・幕張メッセ(四万十川流域の展示は2階中央の総合案内所近く)

●詳しくは：<http://www.jiman-ichi.com>

<送信者>

高知県文化環境部文化推進課

四万十川流域振興室

TEL.088-823-9795 FAX.088-823-9296

E-mail shimanto@pref.kochi.jp

自然にやさしい大正町の林内作業路

清流通信の読者の皆さん、こんにちは。今回は、大正町役場で平成8年から始まった、低コストで環境に配慮した林内作業路づくりについて紹介します。

大正町は、総面積の93%を山林が占める山間地域で、878haに及ぶ町有林は町が管理運営しています。林業不振の中、当時林務担当となった田辺課長は、「この山をなんとか宝の山にしたい」との思いから、山を歩き、文献を調べ、辿りついたのが、日本の作業路の大家・大橋慶三郎氏の門下生である橋本氏（徳島県）が実践する作業路でした。この作業路は、間伐などの作業に一時的に利用するだけでなく、車で巡回したり、材木を搬送したり、継続的に利用できる高密度作業道です。田辺課長は橋本氏のもとで研修を積み、独自の改良を加えて作業路づくりに着手しました。

大正町は地形的に急峻なところが多く、環境保全やコスト面を考えると広い作業道は作れません。

①コストを安く②自然災害に強い③維持管理が容易で恒久的に使用できることをポイントに、幅員3m未満で2t車や林内作業車が木材を搬送できるように設計された作業道は、基本的にコンクリートを使わず、現場の地形を生かしながら道を伸ばし、資材もできるだけ周囲にあるものを活かし、かつ捨てる土砂を出さないように工夫されています。また、道の外側に表土を張り植生回復が容易になるよう試みたり、支障木を作らないなどの自然に優しい配慮が施されています。費用は、県や町の補助金で1mあたり1,500円と安価で、年間30~40kmのペースで、総延長約180km(H15末)が整備されています。

この作業道は、木材の搬出を目的に作られたものですが、間伐の作業や搬出にも使われ、きめ細かな山の管理もできることから、山が元気になり、人の雇用が生まれ、現金収入も生まれるなどの好循環を実現。今では町有林からの収入も増え、町の産業活性化への役割も担っています。

「今後は木材の地産地消に取り組み、林業を中心とした特産品の開発や観光遊歩道などへの資源活用も図りたい」と語る田辺課長の作業路は、林業再生、山村活性化への一つの光明として、いま全国の注目を集めています。

●お問い合わせ／大正町産業課 TEL.0880-27-0113



▲崩壊を防ぐため法面は1.5m以下の直切りに。



▲土留めに埋め込まれた広葉樹の切り株。

Topics

メルマガ「四万十川源流域・かわうそ通信」を購読しませんか？

地域づくりに関する情報等を広くPRするため、双方向でのネットワークづくりをめざし、平成15年1月にスタート。四万十川源流域とニホンカワウソが最後に目撃された新荘川流域をキーワードとする楽しい話題やイベント情報の他、全国から寄せられた情報を編集して配信するメールマガジンで、現在全国(海外にも)に700名の購読者がいます。購読(登録)料は無料、情報掲載料なども一切不要です。週に2~3回程度を目標に配信しています。

●詳しくは/<http://www.mag2.com/m/0000104387.htm>

四万十の源流域で、土佐和紙を創作する工芸作家。

清流通信の読者の皆さん、こんにちは。今回は四万十川源流域の梶原町にある「てんぐの風」で手漉き紙の制作・展示販売を行っているロギール・アウテンボーガルトさんを紹介しします。

ロギールさんは1955年オランダで生まれ、本年50歳になります。グラフィックデザインの学校を卒業後、図書館の本や美術本など希少性や芸術性の高い専門書のブックカバーを直す工房に弟子入りしました。

「ヨーロッパでは、本の価値が高くブックカバーを修復することは、図書館などにおいて重要な作業のひとつです。当初、私は表紙のデザインに興味がありましたが、修復の作業の技術を身につけていく中で、和紙への思いが強くなりました。そこで、和紙の原点の日本に行くしかないと思い、今考えれば無謀ですが、1980年にシベリア鉄道から、船を乗り継いで横浜へやってきました。日本についてから、埼玉県、京都府、兵庫県、福井県、島根県、鳥取県、高知県、九州各県、沖縄県といろんな紙産地を回り、沖縄県で尊敬する紙漉き屋さんから、『本気で和紙をしたいのなら、原料から植えて勉強しなさい』と言われました。そして、その人に最適な地域として教えられたのが高知県でした」と、紙のオリエント日本、そして高知にたどり着いた過程を流暢な日本語で話してくれました。

高知県紙業試験場で研修後、いの町でコウゾ、ミツマタ、クワを植えて和紙工芸をスタート。1992年に現在の梶原町・太田戸に移ってきました。四国カルストのすぐ下に工房を構え、紙の原料も近くの畑で栽培しています。創った和紙は近くのショールームにて展示販売をしており、ロギールさんの理想に近い創作活動が行われています。

四万十の源流域に活動の場をおいたロギールさんは、紙漉きを通して地域の環境教育にも関わりを深めており、1993年より総合学習の授業を受け持っています。山との関わり、水との関わり、そして人との関わり。単なる環境教育に終わらせず、日本の良い点を繋いでいき自然や地域の文化を大切にする心も育てて生きたいというロギールさんの想いは、きっと子どもたちに伝わっていくことでしょう。

●お問い合わせ／てんぐの風 TEL.0889-68-0028

<http://www.shimanto.or.jp/satellite/tengunokaze>



▲手すき和紙による創作灯り。



▲高知市で体験学習の実施。

Topics

梶原町太郎川「雲の上の温泉」広々リニューアル

「美人の湯」として人気を集めてきた「雲の上の温泉」が昨年末にリニューアルしました。新たな源泉(二号泉)からの引き込みに合わせて施設を改修していたもので、露天風呂は浴槽が2つから3つに増え、サウナ室も1.5倍ほど広くなって開放感が増しました。湧出量は毎分180ℓと、今までの約6倍あり、さらっとした一号泉に対し、ぬるっとした肌触りが好評。大雪の日には、南国高知では珍しい露天雪見ぶろも楽しめます。営業10時～22時(火曜は17時～)、大人500円、小人300円。

●お問い合わせ／雲の上の温泉 TEL.0889-65-1126

四万十川との約束、「四万十ブランド認証制度」

清流通信の読者の皆さん、こんにちは。今回は、四万十川財団の「四万十ブランド認証制度」について紹介します。

「四万十川」が全国的に有名となり、地元ではお土産物や特産品など多くの商品が“四万十川〇〇”のネーミングで売り上げを伸ばすことができました。また、四万十川とは縁遠い商品も“四万十川”と名付けられて流通を始めたため、見分けにくい商品が店先に並ぶような状況も生まれました。そこで、流域産の確かな商品には、認証マークを貼ってもらい、このマークのある商品は消費者の方々に安心して買っていただくこと、この制度を16年5月から始めました。

この制度の対象となる商品は、

- 四万十川流域で生産・加工された原材料を使用して流域内で生産されていること。
- 商品の生産工程などで環境に配慮した具体的な取組みをしていること。
- 農薬や食品添加物などをできる限り使用しないこと。

などの条件をクリアすることが求められています。この条件を満たし、審査をパスしたものののみ、認証マークを貼って販売ができます。現在までに、14品目が認証を受け、いずれも原材料にこだわり、その生産や加工方法などにも工夫を凝らした商品です。また、生産者は四万十川の環境保全活動にできる限り参加するなど「環境保全への積極的な取組み」も行っています。認証マークには、「消費者に安全・安心を！環境にもやさしく！」という生産者の商品に対する想いがたくさん詰まっています。

四万十川財団のホームページでは主な売り場の紹介と併せて、生産者のプロフィールなども詳しく紹介されています。また、インターネット上でお客様と生産者とが直接売買できるようなシステムについても検討しているそうです。

四万十川に住んで、四万十川を守っているからこそ『四万十ブランド』。このマークを通して、「四万十川は地域の誇り。私たちは後世までこの川を守ります。」という生産者の想いが、全国に届くよう願っています。是非、マークを見られたら、手に取ってみてください。

- お問い合わせ 財団法人 四万十川財団

TEL.0880-29-0200 <http://40010.tv/>



▲四万十ブランド認証マーク



▲認証第1号商品「四万十ニク味噌」

Topics

しまんと黒尊交流会 3月20日(日)～21日(春分の日)

四万十川の中で最も清流が保たれ、人々と自然が共生している黒尊川流域、この恩恵を守るため地域の住民が立ち上がりました。黒尊の魅力を自ら再認識し、多くの方々に知ってもらおうと「しまんと黒尊交流会」を西土佐村で開催します。

- 20日：鹿児島県から原田則子さんを招き、地域づくりについての講演と夕食交流会
 - 21日：作家 C.W.ニコルさんの講演と夕食交流会・溪谷やブナの原生林散策ツアー
- * 詳細は、四万十川HP (<http://www.pref.kochi.jp/~shimanto/>) をご覧ください。

- お問い合わせ：地域づくりの会『しゃえんじり』

Tel&Fax.0880-54-1477(電話は平日 9:00～17:00) E-mail:shaenziri2005@venus.livedoor.com